

桶川市立小・中学校における夏季休業期間の検討に係る アンケート調査（児童生徒）集計結果

<調査対象>

桶川市立小・中学校 11校 全児童生徒（5115人）

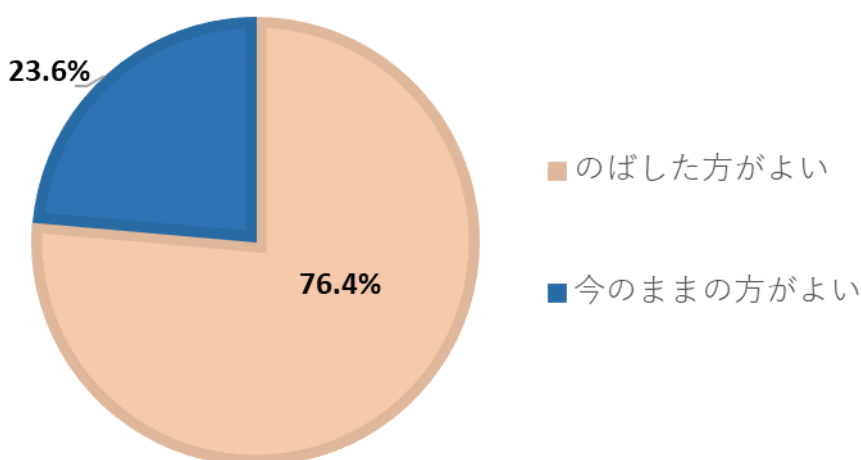
*回答数 4470人 回答率 87.4%

<実施時期>

令和7年9月

<集計結果>

- 1 夏休みを8月31日までのばすことについて、自分の考えに最も近いものを選んでください。



- 2 「1」で、なぜそう思いますか。あなたの考えをお書きください。（記述）

*回答のあった主な意見を集約したもの。

『のばした方がよい』
<p>○猛暑・酷暑への懸念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の暑さによる体調不安や熱中症のリスク ・暑さで授業に集中しにくい <p>○近隣市町との夏休み期間の統一</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣他市が8月31日まで夏休み ・桶川市だけ2学期が早く始まる ・友達と遊べる日が合わない <p>○宿題・勉強時間の確保（受験勉強含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題を終えるための時間が不足 ・中学生としては受験勉強の時間を確保したい <p>○思い出・家族との時間確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みをもっと楽しみたい ・家族や友達との思い出を増やしたい <p>【意見の傾向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暑さによる自身の健康や学習への影響、思い出作りをしたいといった意見が多い

『今のままの方がよい』

○生活リズムの乱れ・学力低下の懸念

- ・休みが長すぎると新学期が辛くなる
- ・生活リズムが崩れる
- ・だらけて勉強しなくなり学力低下に繋がる

○保護者の負担

- ・夏休みが長くなることで、ご飯を作る親の手間が増えたり、迷惑がかかったりする

○学校での交流や活動の重視

- ・早く学校に行きたい
- ・学校が好きだから
- ・友達や先生に会いたい

○授業進度への懸念

- ・夏休みを延長することで授業が進まなくなる
- ・1日の授業時数が増える
- ・習い事のスケジュールに影響が出たりする

【意見の傾向】

- ・生活リズム、学力維持、学校での交流を重視する意見が多い

桶川市立小・中学校における夏季休業期間の検討に係る アンケート調査（教職員）集計結果

＜調査対象＞

桶川市立小・中学校 11校 全教職員（県費負担教職員 316人）

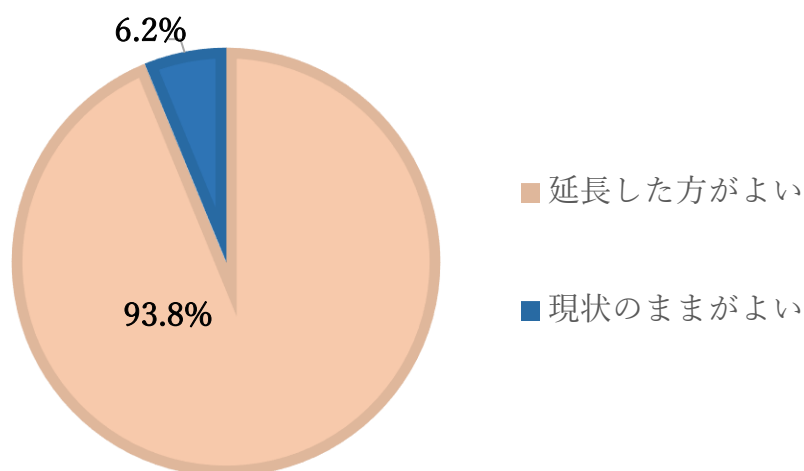
＊回答数 291人 回答率 92.1%

＜実施時期＞

令和7年9月

＜集計結果＞

- 1 夏休みの期間を8月31日まで延長することについて、ご自身の考えに最も近いものを選んでください。



- 2 「1」で回答した理由について書いてください。（記述）

＊回答のあった主な意見を集約したもの。

『延長した方がよい』

○猛暑・酷暑への懸念（児童生徒の健康・安全、学習環境）

- ・ 8月下旬の登下校中の熱中症リスク ・ 児童生徒の体調不良もある
- ・ 特別教室にエアコンがないなど快適な学習環境が確保できない

○近隣市町との期間統一

- ・ 上尾市や北本市など、近隣の多くの市町が8月31日までを夏休みとしているため、桶川市も足並みを揃えるべき
- ・ 部活動の大会日程調整などの弊害もある

○教職員の働き方・授業準備時間の確保

- ・ 夏休みを延長することで、2学期の授業準備や教材研究に充てる時間が増え、仕事に余裕が生まれる
- ・ 教職員自身のリフレッシュ期間や自己研鑽の機会を確保しやすくなる

○授業時数・教育課程の観点

- ・ 近年、行事精選などにより年間授業時数の確保は可能であるため、児童生徒の健康を優先しても問題ない
- ・ 8月下旬の授業は短縮日課が多く、学習効果が低いと感じる

【意見の傾向】

- ・ 登下校における児童生徒の健康面の心配、暑さによる授業等への影響、近隣市との期間の統一に関する意見が多い。

『現状のままの方がよい』

○児童生徒の生活リズム・学力低下への懸念

- ・ 夏休みが長すぎると、児童生徒の生活リズムが乱れて新学期への適応が難しくなる
- ・ 学力低下や登校意識の低下につながる可能性がある

○授業時数確保とカリキュラムへの影響

- ・ 授業日数が減ることで、1日あたりの授業時数が増える可能性や、詰め込み授業になる
- ・ 修学旅行などの行事予定の組み直しも必要

○児童生徒の学校への適応支援

- ・ 不登校傾向の児童生徒が、夏休み明けに学校生活にゆっくり慣れる期間がある現状（8月25日始まり）が良い
- ・ 9月1日開始よりも、段階的に学校に慣れていく今の進め方が良い

【意見の傾向】

- ・ 児童生徒の生活習慣の維持、学力保障及び行事等の学校運営への影響を心配する意見が多い。

桶川市立小・中学校における夏季休業期間の検討に係る アンケート調査（保護者）集計結果

＜調査対象＞

桶川市立小・中学校 11校 家庭数（4275）

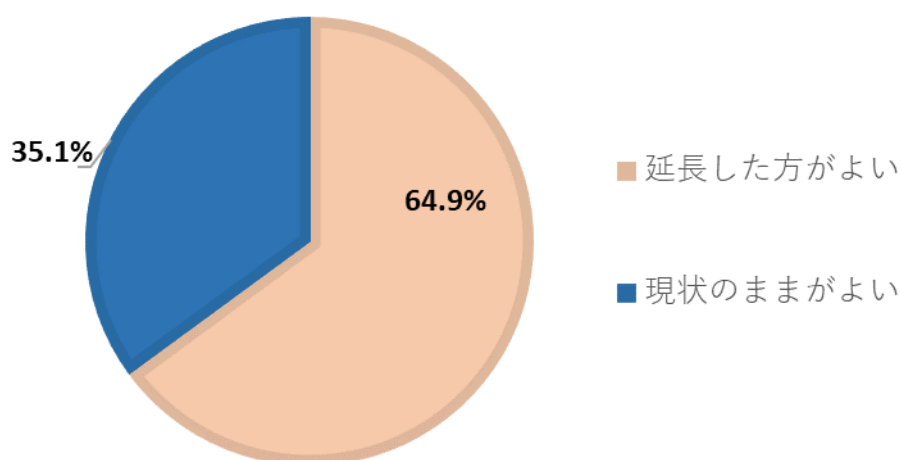
＊回答数 2373人 回答率 55.5%

＜実施時期＞

令和7年9月

＜集計結果＞

- 1 夏休みの期間を8月31日まで延長することについて、ご自身の考えに最も近いものを選んでください。



- 2 「1」で回答した理由について書いてください。（記述）

＊回答のあった主な意見を集約したもの。

『延長した方がよい』

○猛暑・酷暑への懸念

- ・ 8月下旬の酷暑の中での登下校や、子どもの健康面が心配
- ・ 9月に入ってからの方が暑さは落ち着く

○近隣市町との期間統一

- ・ 近隣の市町よりも夏休みが短い

○家族との時間確保や有意義な過ごし方

- ・ 長期休暇を利用して家族と過ごす時間を増やしたい
- ・ 夏休みを有意義に過ごしたい

○学期開始の区切り

- ・ 9月から二学期の方が区切りが良い

【意見の傾向】

- ・ 登下校時の暑さによる子どもの健康面・安全面での心配、近隣市と統一を希望する意見が多い。

『現状のままの方がよい』

○生活リズムの乱れ・学力低下の懸念

- ・休みが長すぎると子どもの生活習慣が乱れ、学校へ行くのが億劫になる
- ・学力低下に繋がる

○保護者の負担

- ・共働き家庭では、子どもの預け先や毎日の食事準備の負担が増える
- ・給食があるのは、大変ありがたい

○学校での交流や活動の重視

- ・子供たちは早く友達や先生に会いたいと思っている
- ・学校での学習や交流を通じて得られる成長や楽しみがある

○暑さ対策の効果への疑問

- ・1週間程度の延長では暑さ対策として大きな効果がない
- ・学校の空調設備で対応可能

【意見の傾向】

- ・子どもの生活習慣・学力維持や保護者の負担増に関する意見が多い。